



## スキンヘルス・プラザ 23

# ストーマ装具剥離時の痛み・皮膚障害について

ストーマ装具の剥離時には、その刺激から皮膚障害を誘発するとともに、激しい痛みを生じます。東京慈恵会医科大学病院では、ストーマ装具を簡単にはがすことができる新しい剥離剤を使用し、患者のQOL向上に努めています。

### 終末期患者の痛みをすこしでも緩和したい

ストーマ造設患者の皮膚障害には、排泄物によるもの、内臓病変の皮膚表現（デルマドローム）によるもののほかに、ストーマ装具や絆創膏などによるものがあります。

皮膚に直接貼付されるストーマ装具は、面板と医療用粘着テープです。面板は皮膚保護材の板材ですが、組成成分の種類によって特徴があることを十分認識して選択し、交換間隔を設定しなければなりません。皮膚保護材は各個人に最も合ったものを選択し、生活スタイルを考慮して装具の交換間隔を設定します。

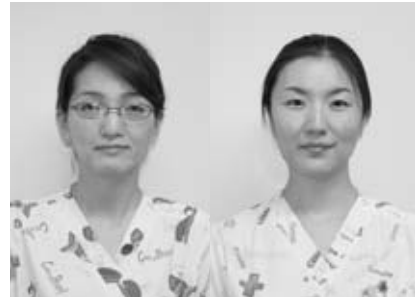
皮膚保護材を使用していない全面粘着剤の面板を装着していると、水分吸収性がないため皮膚が閉塞状態となり、浸軟し、細菌感染などの皮膚障害を起こしやすいといわれています。

皮膚保護材を使用している場合、それぞれの皮膚保護材に設定された交換目安よりも頻回に交換していると、剥離

刺激で皮膚障害を起こしやすくなります。逆に、長期間貼り付けたままにしておいても、皮膚の生理機能が果たせなくなり、皮膚のバリア機能を弱めることとなります。

東京慈恵会医科大学附属病院の五十嵐弘美さん（皮膚・排泄ケア認定看護師）は、「患者さんのなかには、ストーマ装具を毎日交換してスッキリしたいという人もいます。逆に、剥離刺激が強くて週に1回交換するのいやだという患者さんもいます。最近経験した67歳の女性は、装具をはがすときに泣くほど痛がっていました。胃がんのターミナル期だったので、がん性疼痛も強く、せめて剥離時の痛みを緩和させてあげたいと思っていました。濡らしながらはがしてみたり、体毛を剃ってみたりしたのですが、剥離時の痛みはほとんど変わりませんでした」と言います。

そこで、非アルコール性の新しい剥離剤を使用したところ、痛みが気にならず簡単にはがすことができました。この剥離剤「皮膚用リムーバー」



東京慈恵会医科大学附属病院 皮膚・排泄ケア認定看護師の五十嵐弘美さん(左)と堀友子さん

は、皮膚に付着してはがれにくくなった粘着剤や皮膚保護材を溶かしてはがれやすくするのではなく、皮膚と粘着剤のすき間に入り込んで粘着力を弱めるというものです。

「この剥離剤を使い始めて、その患者さんの剥離時の痛みに対する恐怖心が緩和されました」と五十嵐さんは話します。

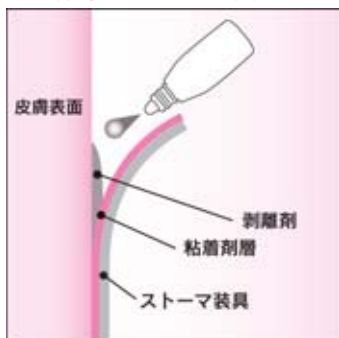
### 剥離刺激を緩和できる非アルコール性の剥離剤

同院皮膚・排泄ケア認定看護師の堀友子さんは、「びらんや発赤などがある患者さんにアルコール含有の石油系剥離剤を使用すると痛みが強いため、そういったケースでは非アルコール性のものを使うようにしています」と言います。

なお、剥離剤が皮膚に残ると皮膚障害の原因になったり、装具の粘着力が低下するため、使用後は石けんで洗浄し、十分洗い流す必要があります。

「皮膚用リムーバーはほとんど油膜

## ●皮膚用リムーバーの使い方



が残らないので、ティッシュペーパーなどで簡単に拭き取れます。したがって、剥離面を洗う作業も簡単ですし、私たちの手も油でべとべとしないので、次の処置をする時の手間も省けるといったメリットもあります」(堀さん)

五十嵐さんは、「臭いがほとんどないことも特徴だと思います。ただでさえストーマ装具をはがすときは排泄物の臭いがするので、無臭であるに越したことはないのです。ターミナル期で、呼吸苦がある患者さんに使うとなるとなおさらですね」と言います。



ストーマ装具を簡単にはがすことができる剥離剤「皮膚用リムーバー」。粘着力を低減させ、剥離時の刺激と皮膚の損傷を低減する。  
30mL 1,260円(税込)

## 患者のライフスタイルを考慮した剥離剤の選択

ストーマ装具の交換間隔は、患者さんの生活スタイルを考慮して設定することが大切です。

「剥離剤も同様に、患者さんのライフスタイルに合わせて選ぶことが大事だと思います。短時間で簡単に装具をはがしたいときや、高齢者ではがす力が弱い人の場合には、皮膚用リムーバーは有効だと思います」(五十嵐さん)

堀さんも、「ストーマ外来の来院前日に粘着性の強いストーマ装具を装着した場合は、来院時に粘着力がピークになります。また、肌の湿度や発汗の影響で粘着力が強くなることも少なくありません。そういった時期に装具を交換する場合も、使いやすい剥離剤だと思います」と言います。

なお、チューブ管理中の入院患者や在宅患者の場合は注意が必要だということです。

「とにかく簡単にはがれるので、カテーテルやドレーンなどを固定してい

るテープにかかってしまうと、一緒にはがれてしまうおそれがあります。液体なので、できるだけストーマ装具以外の固定用テープに流れ込まないように注意してください」(堀さん)

ストーマ装具剥離時の患者さんの痛みや皮膚障害は、QOLに大きく影響します。剥離時の刺激と皮膚の損傷を低減する剥離剤は、ストーマ造設によりさまざまな日常生活で負担を感じる患者さんのQOL向上の意味でも選択肢の1つではないでしょうか。

### この記事に関する ご意見・ご要望をお寄せください

このコーナーは、調査・研究発表の場であるとともに、読者の皆様と3Mとの意見交換の場です。記事に対するご意見・ご要望をお寄せください。

スリーエムヘルスケア株式会社  
医療用製品事業部カスタマーコールセンター

ナビダイヤル※ **0570-011-321**  
受付時間/9:00~17:00(土・日・祝日・年末年始を除く)

※ナビダイヤルはNTTコミュニケーションズ(株)のサービス名称です。ナビダイヤルサービスは全国どこからでも市内料金でご利用いただけます。携帯電話からでもご利用いただけます。PHS(最初の3桁が070)からはご利用できません。